

## 清瀬市公共施設再編計画（案）市民意見交換会における意見と市の考え方

### ■意見交換会での意見の取扱い

No.	質問(概要)	回答
1	本日の意見を計画(案)へ反映する際の基準は。	市長が必要と認めた場合に反映することになります。 公共施設再編計画(案)について、これまで市民検討委員会や市民説明会、パブリックコメント、意見交換会を通じて様々なご意見をいただきました。その内、公共施設をどのように運用していくべきかといったご意見については、個々の施設再編の方向性に従って具体的に検討する際に合わせて検討します。 一方、公共施設再編を巡る課題認識や公共施設再編の基本的な考え方、再編の検討手法、全市レベルと地域レベルの公共施設の再編の考え方についても賛否それぞれのご意見をいただきましたが、当面これを基本的な考え方として進めたいと考えています。ただし、検討する中でこの考え方に依らない方が適当だと判断された場合には、柔軟に対応したいと考えています。
2	今回の意見交換会もポーズに過ぎないのではないか。	そのようなことはありません。公共施設再編計画(案)の内容は、市議会をはじめ、市民ワークショップや市民検討委員会、市民説明会、パブリックコメントなどを通じていただいたご意見を踏まえて検討したものです。また、今回の意見交換会の開催や、皆さんからいただいたご意見に対する市の考え方をホームページや各公共施設でご覧いただく取り組みは、2月に開催した市民説明会でいただいたご意見をもとに実施しています。
3	地域ごとの公共施設の再編の話し合いが市民参加で行われるか心配である。	地域レベルの公共施設の再編は、より市民生活に影響を及ぼすため、市民の参加は欠かせないと考えています。議会からもそのように進めるようご意見をいただいています。

### ■市民合意

No.	質問(概要)	回答
4	本日の意見交換会の様な形式で、市と各団体が話す場があるとよい。	今後も市民の皆さんにご意見をいただく場を考えています。その際には、いただいたご意見も含め最適な方法を検討し、実施します。
5	市は手順を踏んで十分知らせているつもりだろうが、もっと市の情報を知らせようという気持ち少し足りない。市民も自分のまちを自分で決めるという思いを持つ必要がある。	公共施設の再編の検討に多くの市民の皆さんに参加していただけるよう取り組んでまいります。
6	様々な規制があるが突破し、一生懸命やっていることが市民に伝わるとよい。市民も文句を言うだけでなく、ありがとうと言える関係がよい。みんなが本当に意見を聞き合うという姿勢があるとよい。	
7	市の幹部と長時間話ができるこの様な会合を今後もやってほしい。また本来は議員がやるべきだが、公共施設を利用すると政治活動として断られることがあると聞いた。	地域レベルの公共施設の再編は、地域の皆さんと市職員と一緒に検討することを想定しています。また、生涯学習センターなど一部の施設では政治活動が制限されていますが、地域市民センターなどでは利用が可能です。

■全体

No.	質問(概要)	回答
8	延床面積を減らす考えは賛成。ただし活性化しないと、縮小化が進む恐れがある。地域で頑張っている人を応援する環境にしてほしい。	清瀬市の公共施設再編は、「地域コミュニティの維持・活性化など、市民サービスの向上を図ること」と、「持続可能な市民サービスを提供するべく、公共施設の延床面積を削減すること」の両立を基本的な考え方として取り組んでまいります。
9	4つ目の課題として「市民活動の活性化」を入れてほしい。	いただいたご意見は、清瀬市の公共施設再編の基本的な考え方として掲げている「地域コミュニティの維持・活性化など、市民サービスの向上を図ること」に包含されていると考えています。
10	コストばかり言われると何も意見が出せなくなるので言わないでほしい。	清瀬市の公共施設再編は、「地域コミュニティの維持・活性化など、市民サービスの向上を図ること」と、「持続可能な市民サービスを提供するべく、公共施設の延床面積を削減すること」の両立を基本的な考え方としており、どちらか一方に偏った検討はいたしません。
11	公共施設の課題として、公共施設が現在の市民ニーズとマッチしていないという課題認識は、具体的にはどのようなことか。	例えば、多くの公共施設を建てた昭和40年代から60年代に比べ、子育て支援の分野では、子育て家庭の親が就労しており、保育園ばかりでなく学童クラブなど放課後の居場所の確保のニーズは高まっています。また、市民活動の場となる市民センターの貸部屋では、活動グループの人数が少人数化しており、部屋の大きさが大きすぎるといった状況も見られます。さらに、自由に集えるオープンスペースも求められていると感じています。 令和元年度は、さらに市民や利用者のニーズや利用状況を調査して、対応の緊急度や実現可能性等について、今後の検討に生かしたいと考えています。
12	示された全市レベルの拠点は、南口地域、野塩地域の市民にとって利便性が良くない。対策が欲しい。市を巡るバスを運行することでアクセス利便性を高めることができる。	運用上の問題として考えていかなければならない課題だと考えています。
13	全市レベルの拠点化を図る際、若い人たちのニーズを捉えて施設のあり方に生かしてほしい。	再編後の公共施設をどの様に運営するかを考える際の参考とさせていただきます。
14	全市、地域レベルに分けるのが良くない。	「全市レベルの公共施設」と「地域レベルの公共施設」は、果たす機能の違いによって利用目的やサービスが及ぶ範囲が異なるため、施設の集約化の検討は各レベルで進めた方が、市民の皆さんの利便性の向上が図られると考えています。
15	床面積の削減から考えるのは良くない。	財政上50%の削減を目標としています。このまますべての施設を維持していくことは財政的にも不可能なため、できるだけ床面積の削減を図る必要があります。ただし、必要な機能を維持し、利用者の利便性を高めていくこととの両立を基本的な考えとしています。
16	床面積の削減を中心で行うのは仕方がない、削減目標は。	
17	新しい施設は作らないという認識で良いか。	学校施設をはじめ、将来に渡って残すべき施設については、必要な時期に新たな施設を整備するため建替えを検討する必要があると考えています。

18	財政負担の問題もあるが、市としての方向性が既に決まっているように感じる。作る過程で市民の声をもっと拾って欲しかった。	公共施設再編計画(案)は、市議会をはじめ、市民ワークショップや市民検討委員会、市民説明会、パブリックコメントなどを通じていただいたご意見を踏まえて策定したものです。 ただしこの計画は、今後再編を検討する上の基本的な考え方を示すものであり、この考え方に依らない方が利便性やコストの面から良いと判断されれば、そのように選択することもあり得ると考えています。従って、市民の皆さんの声を反映する機会はまだ十分にあると考えています。
19	いつまでに再編の結論をだすのか。	公共施設再編の基本的な考え方や検討の手法、全市レベルと地域レベルの公共施設再編の考え方に加え、全市レベルの公共施設再編の方向性は、令和元年度当初に定めたいと考えています。地域レベルの公共施設については、地域レベルの公共施設に対する利用者の皆さんや市民の皆さんの意向や利用実態を令和元年度に調査した上、令和2年度中に再編の方向性をお示したいと考えています。
20	どの立場から計画するかが難しい。	難しい問題ですが、利用者の立場とまちづくりの主体者としての双方の立場から、市民サービスの向上と持続可能な自治体経営の観点から議論にご参加いただきたいと考えています。
21	市民活動を育てる視点があっても良い、行政主導な感じがする。	市民活動を育てる視点は、公共施設再編の基本的な考え方として掲げている「地域コミュニティの維持・活性化など、市民サービスの向上を図ること」に包含されていると考えています。
22	再編の理念がない。何を廃止し、どれに金を使うのかを決めないと財政が立ち行かない。その際、稼働率等の数値を明らかにし、市民意見を聞いて重点配分先を決める必要がある。	今後、既存の公共施設の全てを維持することが不可能と見込まれる中、ご指摘のとおり、公共施設の延床面積削減の取り組みを着実に推進する必要があります。 しかしながら、公共施設が果たしている機能の多くはどれも、市政の推進に欠かせない機能を有しており、一概に一つの施設を捉えて廃止することはできません。そこで市は公共施設再編の基本的な考え方として、「地域コミュニティの維持活性化など、市民サービスの向上を図ることと、持続可能な市民サービスを提供すべく、公共施設の延床面積を削減することの両立」を掲げています。 この基本的な考え方の下、全市レベルの公共施設については公共施設の目的の枠を超えて、機能ごとに可能な限り集約して、利便性の向上と延床面積の削減を図りたいと考えています。 また、地域レベルの公共施設については、小中学校の適正配置と地域コミュニティ施設の拠点化を同時に実施することで、小中学校と地域コミュニティ施設双方の床面積削減、子どもたちの多様な放課後の居場所の提供、市民のニーズに合わせた施設として更新することなど、現在市が抱える公共施設の課題に対応していきたいと考えています。
23	全市と地域をなぜ別に考えるのか。例えば新庁舎建設の際、近くにある地域市民センターを廃止すればよい。	公共施設再編計画において「全市レベルの公共施設」とは、市に一つしかない機能を提供する公共施設で、清瀬市全域に対してサービスを提供している施設を指しています。市役所や清瀬けやきホールなど、これらの施設は主に行政事務機能や相談機能、特定のサービスに特化した活動拠点等の機能を果たしています。一方「地域レベルの公共施設」は、市内の地域毎に複数ある施設で、主にその地域に対してサービスを提供している施設を指しています。こちらの施設は地域市民センターや老人いこいの家、学童クラブなど、地域毎に立地し子どもの居場所や住民の方々の交流の場等になっています。 このように、「全市レベルの公共施設」と「地域レベルの公共施設」は、果たす機能の違いによって利用目的やサービスが及ぶ範囲が異なるため、施設の集約化の検討は各レベルで進めた方が、市民の皆さんの利便性の向上が図られると考えています。

24	コミュニティの場を市がどこまで提供する必要があるのか疑問。市は介護で生活が立ち行かない人等にこそ目を配るべき。また女性の就労のための子どもの保育にも重点をおくべき。	複雑多様化が進む地域課題を行政のみで対応することはできません。市はまちづくりにかかわる様々な主体と協力しながら地域課題に取り組めるしくみを作っていく必要があると考えています。その際、地域にかかわることは自分たちでよくしていこうとする地域コミュニティの存在は欠かせません。現在、市はコミュニティはぐくみ円卓会議を小学校区ごとに運営し、地域の皆さんの自主的な地域活動を支援しています。また、市内各地域では、避難所運営協議会や自主防災組織、学校地域支援本部など、住民の皆さんが中心になって、地域でできることは地域で解決する動きが始まっています。市はそのような地域のつながりを今後さらに広げ、深めることが必要だと考えており、地域レベルの公共施設をそれに役立つものにするのが、市民サービスの向上につながると考えています。
25	全市3拠点のうち、市役所周辺、下宿エリアは駅から離れている。人口が多い地域は元町である。市民の利便性を考えると駅周辺に集積すべき。現位置の市役所は不便で駅周辺の方が南側の人によい。アミュービル、クリアビルを生かせば実現できるのでは。また市役所跡地を文化スポーツ拠点にすればよい。現位置でも、バス路線の確保等市民の利便性を向上してほしい。	全市レベルの公共施設の拠点化は、既存の公共施設の配置を生かしながら集約化・複合化を図ることになっています。これは、拠点を形成するために新たに公共施設を整備することは市の財政状況を踏まえると難しいと考えたためです。そのような中であっても、できるだけ利便性の高い行政サービスと延べ床面積の削減を図れる再編を進めたいと考えています。
26	全ての機能を駅周辺に集積することは大反対。コミプラは駐車場が広く、竹丘から車や自転車、バイクで快適に行ける。駅中心が利便性がよいと思いがちだが間違い。発想の転換をすべきである。	
27	清瀬市だけで考えるのではなく、多摩六都科学館やごみ処理施設の様に、東村山市や東久留米市、新座市、所沢市等と連携すべきである。	他の市と連携は進めるべきだと考えています。現在も市は、北多摩北部地域の4市と連携し、多摩六都科学館のサービスをご利用いただける他、図書館を各市の市民が相互利用できるようになっています。ただし、連携に対する考え方は市ごとに異なるため、新たに連携の分野や相手を広げる上のボトルネックになります。
28	近隣市との連携は大賛成。周辺市に住んでいる人の考え方は同じである。清瀬市だけで考えていてもしょうがない。	
29	他市との相互利用はぜひ進めてほしいが何がネックなのか。	
30	清瀬市のテニス協会では清瀬市民は400円で市外の方は500円の方、東久留米市では市外の方は参加ができない。	テニス協会内のルールには言及する立場にありませんが、テニスコート利用料については、清瀬市では金額に差をつけて市外の方も利用できるようになっています。東久留米市においても、一部のテニスコートは市外料金負担の上、利用できるようにされています。
31	施設の活性化はいつも考える必要がある。	ご指摘のとおり公共施設を種類ではなく機能で捉え、公共施設を有効、効率的に利用できるように再編を検討していきたいと考えています。

32	施策で考えるのではなく市民レベルの目線から検討すべきである。昨年比の利用者増や利用者が抱く心地良さ等のクオリティも測れるとよい。例えば、消費生活センターは消費生活センター、学校は学校だけのものという発想が間違っている。建物のハード目線ではなく、ソフト目線で考える必要がある。余っている部屋は使い、活性化させないといけない。	
33	余った施設は活性化を考えるべきである。施設をこれ以上増やさず、今あるものを生かすことが大事である。	市も、公共施設の延床面積を今以上増やすことはできないと考えています。市民サービスの向上を図りながら、延床面積の削減を図ることが必要だと考えています。
34	誰も使っていない小公園も室の持ち腐れであり、全国的にも課題だが、極端に言うと売却すればよい。金をかけずに市民がいかに心地よく利用できるかが大事である。	市もそのような公園については、売却し、樹木・花壇などが多く自然豊かな公園や、敷地が広く散歩やジョギング等市民ニーズに合った公園の整備財源とするなど、有効に活用したいと考えています。
35	同じ機能が多くあるものを統廃合することは賛成だが、駅前の場所を無くし、遠いコミュニティプラザを残す等、市民が不便になる統廃合は反対。様々な機能が市役所に行かなくてもカードでできること等はサービスの向上の面でよい。	消費生活センターは廃止しますが、その機能を駅前のアミューに移転することで、消費生活センターの市民活動の場としての機能と利便性を維持できると考えています。 市役所に行かなくても用事が済ませられるようにすることについては、ご意見として承りました。
36	市は金がないと言い、意見を言う側はあそこがおかしいという話が多い。ダメなところを円満にできるかである。	難しい問題ですが、延床面積の削減と市民サービスの向上の両立を、公共施設再編の基本的な考え方として進めていきたいと考えています。
37	全体の話としてはよいが、具体的には南北の行き来が大変。コミバスを拡充してほしい。好きなところで乗降できる位してもよい。	公共施設を全て維持するとはできないため、公共施設の再編は避けられない問題です。アクセスの問題は、運用上の課題として検討したいと考えています。

■周知

No.	質問(概要)	回答
38	市報掲載と公共施設への掲示だけでは足りない。この課題は市民全体に関わるので、市の掲示板や全世帯にちらし配布等してほしい。	皆さんに市政に関する情報を伝える方法として市報は最も有効です。そのため、市は市報を全戸配布しています。 市民意見交換会の開催にあたり、3月1日号、15日号の市報に記事を掲載し、各公共施設でもご覧いただけるようにしました。ただし、市報の紙面には限りがあるため、必ず一面に掲載できるとは限らないことについてはご理解くださるようお願いいたします。
39	今回の意見交換会の周知方法はひどい。市報が目にとまらない場所に掲載されていた。一面に載せるべきである。	

■新庁舎

No.	質問(概要)	回答
40	新庁舎の議場を一般開放してほしい。公共施設は市民のものであり、有効活用は自然の流れ。3回の陳情は全て不採択になった。それを市議会だよりの他、市報に掲載すべき。また市として議員を説得すべき。不可能とする法的根拠は。	議場のあり方については、市議会が判断するべきことだと考えています。市議会では、様々な意見を踏まえた上、現在の考え方に至ったものと理解しています。
41	新庁舎建設は委員会の答申を逸脱したやり方で進んでいる。金がないばかりで知恵を出すことを全くやっていない。	
42	新庁舎は駅前がよい。現位置は交通面で危険で、落ち着かなく、周辺環境が良くない。	駅前という立地は利用者にとって、利便性の面で優れていると考えられる一方、現在の位置は、市民の生命・財産を守るという行政機能の側面からみると、ほぼ市域の中心であり、清瀬消防署に近く、また避難所である清瀬小学校、清瀬中学校と隣接しているため、防災活動・災害復旧活動の拠点として、消防署との連携や迅速な対応、広域的な支援の受け入れ場としての展開が可能です。また様々な機能が集積され、常に人が集まる場所である駅周辺に市庁舎があった場合、交通混雑等によって利便性が損なわれることや、有事の際に災害対策拠点として十分な機能を発揮できない恐れもあります。さらに、商業施設等の代わりに市庁舎があることで、駅前の賑わいが消失することも懸念されます。このため、市庁舎は現在地における建て替えを実施しています。
43	駅の商業活動を損なう程、駅前に公共施設は集積していない。市民の利便性を考えてほしい。証明書の発行や戸籍の異動、その他の市庁舎機能が駅前に集積されると良い。	
44	現在の市役所は南側の人にとって本当に不便である。	
45	市役所は、地図上で市域の中央だが、南口地域、野塩、下宿、旭が丘のどの地域からも遠い。高齢者にとっては徒歩圏が必要だがコンビニは難しい。新庁舎に機能を集約するならバス運行が必要。または地域市民センターに出張所機能を望む。	今後コンビニエンスストア等を活用し、もっと身近に行政サービスを受けられることが可能になります。運用上の課題を踏まえた検討も行いながら、従来の手法に固執しない別の手法を模索できると考えています。
46	ワンストップサービスを優先するなら市役所に集約化するのではなくアミュービルがよい。アミュービルが手狭なら消費生活センターを移転しなければよい。延床面積の削減が必要なら大きな新庁舎は不要。	公共施設再編計画(案)では市役所周辺に、子ども家庭支援センター、教育相談センターの機能を集約したいと考えています。これは、子育てに関連する相談機能を集約化する他、市庁舎内の福祉施策の行政機能と近くなることで、より良い市民サービスをご提供する環境を整えるためです。このため、アミュービルでは難しいと考えています。市庁舎の建替えは、別の場で議論され、建替えが決まっておりますので、ご理解くださるようお願いいたします。
47	あれ程大きな新庁舎を建設し、そこへ様々な機能を集約し、一方で他の公共施設を縮小するという方向性では市民の理解は得られない。	
48	新庁舎で市民も使える場所があるとよい。先に公用予約が入り、公共施設が思う様に使用できない点は解消してほしい。	新市庁舎には、行政事務用の会議室の必要数を精査の上備えることにしていますので、その様なことがないようにいたします。

■野塩地域市民センター

No.	質問(概要)	回答
49	野塩地域市民センターは古い。また避難場所としては柳瀬川が近くて危険である。	野塩地域市民センターは、地域レベルの公共施設として地域の皆さんに参加していただきながら再編を検討します。

■消費生活センター

No.	質問(概要)	回答
50	消費生活センターの事務及び相談機能は新庁舎に、市民活動機能をアミュービルに移す考えは反対。相談機能が駅前ないと利便性を損なう。現在、相談機能に注力しているが、市民活動機能と事務機能も本来切り離せない。	消費生活センターの相談機能は、利便性の確保と機能の向上の2つの視点から配置を検討してまいりたいと考えています。また、市民活動機能と事務機能の配置については、両者の連携の他、市庁舎内の他の部署との政策間連携の必要性など多様な視点から最適な配置を検討します。
51	消費生活センターの事務及び相談機能と、市民活動機能を別々に移転することは本当によいのか。事務機能と市民活動機能の連携が難しくなるのではないのか。	
52	消費生活センターがアミュービルに移転した場合駐輪場がない。地下駐輪場の一時利用は午前10時になると満車になる。	清瀬駅周辺にはご指摘の駐輪場の他、多くの駐輪場がありますのでご利用ください。
53	全市レベルの公共施設にオープンスペースを併設すると、市政に市民参加を促進することにつながると考える。例えば消費生活センターに、若い人たちに利用されるオープンスペースが備わると、消費生活問題を若い人たちに発信しやすくなり、若い人の関心を高めるきっかけとなる可能性がある。	再編後の公共施設をどの様に運営するかを考える際の参考とさせていただきます。
54	消費生活センターが移転しても、調理室を備えるべきである。ニーズが高まっている食事難民対策のため、調理室は必要な機能であり、駅前など不特定多数が集まる地域に立地することが、問題を抱えている人にとっての利用のしやすさにつながると考えるからである。	調理室の必要性に関するご意見として承りました。調理室を含め公共施設に求められている機能を皆さんと考えながら地域レベルの公共施設の拠点の検討をしてまいります。その際、今回いただいたご意見にも留意して検討いたします。
55	消費生活センターについて調理室があるのにどうするのか。	現在、市民の皆さんのご利用に供している調理室の代替は、コミュニティプラザひまわりにあります。また、地域レベルの公共施設の再編の検討時にも、備えるべき機能の一つとして検討することも可能です。
56	消費生活センターについて保育園はどうするのか。	駅前乳児保育園も、駅前の立地や保育定員を維持しながら移転する可能性を検討します。
57	消費生活センターがアミューに移転とあるが具体的には。	新市庁舎に移転する生涯学習スポーツ課が現在使用しているスペースに移転することを想定しています。

58	消費者相談業務については新庁舎に移すのか。	相談業務の相談内容や利用者の現状を踏まえて検討してまいります。
59	消費生活センター移転後の跡地活用は。	移転後の消費生活センター跡地は、条件が整えば売却したいと考えています。
60	消費生活団体とアイレックが一緒になることは問題ないが、これまで通りの活動ができるか。特に調理室は駅から近く貴重で、コミュニティプラザひまわりは不便。健康センターの調理室を一般開放するなど、納得のいく代替策がほしい。	公共施設の再編は、必要な機能はしっかり維持しながら進めることにしています。そのため、消費生活センターの市民活動の場としての機能も、アミュービルの中に確保することを考えています。 ただし公共施設の延床面積の削減と市民サービスの向上の両立を図る公共施設再編を実現するには、合理的な我慢や工夫を市民の皆さんにお願いする場合もあり、すべてが現状と変わらないようにすることは難しいと考えています。調理室の機能は当面、コミュニティプラザひまわりをご利用いただきたいと考えていますが、地域レベルの公共施設の再編時に地域の拠点に調理室の機能を備えることは検討することができると思っています。
61	消費生活センター単館は他市にはなく、誇りである。	消費生活センターの建物が誇りというご意見については、移転後も消費生活センターとしての機能は残るのでご理解くださるようお願いいたします。

#### ■コミュニティプラザひまわり

No.	質問(概要)	回答
62	コミュニティプラザひまわりは南口地域の人にとっては遠い。コミュニティバスを通してほしい。	公共施設を全て維持するとはできないため、公共施設の再編は避けられない問題です。アクセスの問題は、運用上の課題として検討したいと考えています。
63	コミュニティプラザひまわりは車を使わない人にとってアクセスが良くない。しかし、車を使う人にとっては、十分な駐車場が備わっており使いやすいと聞いている。	そのように評価されていることは市も承知しています。

#### ■子ども家庭支援センター

No.	質問(概要)	回答
64	子ども家庭支援センターが移転すると子どもが相談できなくなる。児童館内の立地に良さがあ、相談の可能性を閉ざすことになる。	児童館に来館する子どもが、子ども家庭支援センターの相談窓口を訪れるケースはほとんどありません。児童館では日頃子どもたちと活動する児童厚生員が日頃築いた信頼関係のもと子どもと様々な話をする必要があります。これからは青少年健全育成の場として児童館の充実を図ります。事務機能の連携の他、市民が子育てに関する手続きを一括でできることによる利便性や機能の向上が図られるメリットの方が大きいと考えているため、子ども家庭支援センターは健康センターに配置したいと考えています。
65	相談はワンストップにすることも大事だが、リスクは分散した方がよい。集約するとそこに行かない人は救えない。	
66	ワンストップでも分散でもマンパワーがあれば関係ない。結局人である。	
67	子ども家庭支援センターについて、児童館業務と相談業務を別にするのはいかがなものか。	市は、子ども家庭支援センターを健康センターに配置することによって、事務機能の連携の他、市民が子育てに関する手続きを一括でできることによる利便性や機能の向上が図られると考えています。
68	行政事務機能とはなにか。	各市政分野の事務事業の企画や調整、進行管理などの業務を指しています。



■教育相談センター

No.	質問(概要)	回答
69	子育てに関する健康推進課、子ども家庭支援センター、教育相談センターの、健康センターへの移転・拠点化は、市民サービスの向上に繋がらない。地域ごとにサービス展開されるべきである。	この再編によって、現在地域で展開されている子育て広場などの事業に影響が及ぶものではありません。必要な事業は、地域で展開されることとなります。
70	教育相談センターと適応指導教室は多くの人が集まる市役所周辺よりも、現在の位置の方が適切ではないか。	専門家の意見によると、利用者にとって知り合いの人と会うことは避ける必要がありますが、不特定多数の人であればそれ程問題はないと考えています。また、現在の施設は狭いため、プライバシーの配慮の面から問題があります。新市庁舎の共用開始後、高齢支援課をはじめとする複数の課が健康センターから移転するため、適応指導教室に必要なスペースを確保することができると考えています。
71	教育相談センターについて市役所周辺では通いにくいのではないか。	歩道の設置状況やバスの運行状況などから、現状に比べて通いやすくなると考えています。
72	適応指導教室とは、何人くらいで授業を行うのか、健康センターに移転は難しいのか。	適応指導教室には約30名の子どもたちが通室しており、通室者の数は増加傾向にあります。
73	利用者の推移は、学校の特別支援学級も増えているのか。	
74	相談業務については、大人が多い場所(健康センター)は厳しいのでは。	専門家の意見によると、利用者にとって知り合いの人と合うことは避ける必要がありますが、不特定多数の人であればそれ程問題はないと考えています。

■市民活動センター

No.	質問(概要)	回答
75	市民活動センターについて廃止してどうするのか。	財源確保のため、売却を検討します。
76	市民活動センターはコミプラにどの時点で移転するのか。	休日歯科診療事業の実施方法の変更など、様々な条件を整え次第になりますので、すぐにという話ではありません。
77	市民活動センター利用者からは、どんな意見が出ているか。	活動の場の確保の不安を伺っています。活動の場の機能は、生涯学習センターや地域市民センター、コミュニティプラザひまわりなど市内の様々な公共施設に備わっているためご利用いただきたいと考えています。
78	市民活動センターの代わりになるコミプラは遠い、交通の便が悪い。	市民活動センターの機能とコミュニティプラザひまわりの機能の親和性や、市民活動センターの立地や施設の老朽化、稼働率を勘案して移転が望ましいと考えました。市民活動の場は市民活動センターに限らず、生涯学習センターや地域市民センター、コミュニティプラザひまわりなど市内の様々な公共施設に備わっていることや、NPOの設立や運営に関する相談の頻度はそれほど多くないことから移転が可能と考えています。ただし運用していく上で、解決しなければならない課題が生じた場合は、その時点で解消策を検討する必要があると考えています。

■図書館

No.	質問(概要)	回答
79	図書館の休館日を月曜日に揃える必要はない。	中央図書館は、老朽化が進んでいるためそのまま維持することは難しいと考えています。現時点において中央図書館は、主に図書館行政に関する企画・立案・調整機能に特化させ、その他の図書館を主に図書の貸出機能に特化させることを想定しています。具体的には、今後、地域図書館の機能や配置の検討に合わせて検討したいと考えています。頂いたご意見は、中央図書館の機能の再構築と複合化・機能の移転を検討する際の参考とさせていただきます。
80	中央図書館の蔵書数は一番多いが、駅前図書館を貸出機能に特化すると、それらの蔵書を置くスペースは確保できるのか。図書館の方向性をはっきり示してほしい。	
81	中央公園プールがなくなった時も残念だった、中央図書館も高齢者のいこいの場となっている。	
82	駅前図書館は勉強している人も多く、混んでいて座る場所がない。中央図書館は静かに本を読むことができる。	
83	中央図書館では、入ると姿勢がピシッとしてマナーを教える場所でもあったように感じる。	

■市民プール

No.	質問(概要)	回答
84	下宿市民プールを廃止するなら、現在神山公園に設置されている水遊び場を南口地域にも設置できるとよいと考える。誰でも自由に使えて、よく利用されている。新しい児童館への設置を検討してほしい。	南口地域児童館の運用や備えるべき機能を考える際の参考とさせていただきます。
85	市民プールはなくしてほしい。	市民プールは老朽化が激しく、稼働率も低いため、レジャー目的の施設として維持し続けることは難しいと考えています。
86	市民プールがなくなるのはショック。公でやってもらいたい。	
87	市民プールがなくなった場合、水泳大会などはどのように実施するのか。	民間事業者のプールを借りることも一つの方法だと考えています。
88	時代が変わっているの下宿プールはいらない。	市民プールは老朽化が激しく、稼働率も低いため、レジャー目的の施設として維持し続けることは難しいと考えています。

■地域レベルの公共施設

No.	質問(概要)	回答
89	地域レベルの施設である老人いこいの家は、老人クラブの人たちに専用されており、一般市民にとって利用しづらい。	地域レベルの公共施設再編の検討の中で、公共施設をどのように運営するかを考える際の参考とさせていただきます。
90	地域レベルの公共施設の拠点化を図る際は、高齢者にとっても使いやすい施設にして欲しい。	
91	南口地域児童センターは、親子の場としてだけでなく、地域の多世代が交流できる施設にして欲しい。	
92	中学生の障害者学級は清瀬中学校のみである。清瀬駅南口地域にも設置して欲しい。	学校教育の課題として教育委員会事務局にご意見を伝えます。
93	学校を地域レベルの公共施設の拠点とする場合、家庭科室は地域の食育活動の場として活用できるような設備面での工夫が必要だ。例えば、講師の手元が参加者にも見れるような鏡の設置など。	地域レベルの公共施設再編の検討の中で、公共施設をどのように運営するかを考える際の参考とさせていただきます。
94	学校のセキュリティにも配慮する必要がある。	
95	学校が地域に開放できる状況なのか。	現状では難しい状況ですが、今後建替える際に地域レベルの公共施設の拠点とされることを前提として施設を整備すれば可能になると考えています。
96	地域ともっと議論して市がリーダーシップをとって決めてほしい。	今後、地域レベルの公共施設の再編を検討する際にはそのように進めていくことにしています。
97	30人学級が理想、学校と地域はある程度の区切りが必要、学童や放課後子ども教室が入り、安易な使い方になってしまっている。現段階で適切な使い方だと思っていない。	学校の適正規模や配置は、公共施設再編の重要なポイントだと考えているため、令和元年度に市民の皆さんに参加していただきながら検討します。
98	今後、高齢化が進み地域センターさえ遠くて行けない市民がでる。稼働率が低い大型施設はもったいない、小さくても良いから近くにあると良い。	老人いこいの家については様々な課題が指摘されているため、解消に向けて検討していく必要があると考えています。
99	老人いこいの家についてみんなが使えると良い。	

100	南側には、松山地域センター以外ない。地域レベルの議論をする際は、南側を大切にしてほしい。	南側にも地域レベルの公共施設の拠点を形成する必要があると考えています。また(仮称)清瀬駅南口地域児童館の構想もあることから、その周辺に地域レベルの公共施設を集積することで、市民の皆さんに身近な拠点を形成することも一つの案と考えています。
101	防災拠点としての地域センターをどう考えるか。地域を良く知っている職員がいた方がよい。	災害発生時には、地域ごとに形成する地域レベルの公共施設の拠点が、地域の災害対策拠点になると考えています。公共施設の再編に合わせて、地域防災計画も見直し、災害発生時に適切に職員配置することができるよう図ります。
102	高齢になると歩行が困難になるので地域を生かせることよい。そこに行けば満足できるサービスがあることが必要。皆が納得するプランとして、成人男子がスタンダードではなく、清瀬市だからこそ弱いものに優しいまちだと示してほしい。	地域レベルの公共施設再編の検討の中で、公共施設をどの様に運営するかを考える際の参考とさせていただきます。
103	適度の大きさの公園が少なく、各地域から中央公園に行くための幹線道路の歩道も狭い。各地域に松山公園程度の広さがあるとよい。小学校の拠点化は子どもが通学しやすい場所が大事。また調理室やグラウンド等、学校はどんどん地域開放すべき。会議で忙しいと思うが教師もグラウンドで子どもと遊んでほしい。	今後は、学校など地域レベルの公共施設の拠点が子どもの遊び場、居場所となることも考えられます。そのような施設に大人も集えるような機能が備われば、ご意見のような使われ方も実現できると考えます。

■その他

No.	質問(概要)	回答
104	子どもや高齢者、障害者に優しい公共施設にしてほしい。例えば公共施設の一角にデイサービスやカフェ、サークル活動ができる場がほしい。	運営のご意見も、部屋の構成や建物の位置に関連するため、再編と切り離して考えられません。同時に検討したいと考えています。
105	コスト削減を理由に集約するとのことだが、民間委託を増やすのか。	公共施設の維持管理に関する経費を様々な手法で縮減する必要があり、民間事業者との連携も重要な視点です。既に地域市民センターのうち、松山・野塩地域市民センター以外は、民間に管理運営をお願いしています。
106	市民と職員の触れあいが減ってしまう、終には市民サービスの低下につながり非効率となる。	限られた職員数で、多様化、複雑化する地方公共団体の業務に対応していくには、公共施設の指定管理者制度の導入など、民間事業者との連携を積極的に推進し、効率的・効果的な施設の管理運営をする必要があります。また、市は、施設管理者の管理運営の状況を監督し、市民との良い関係性をしっかり保てるように図っていきます。
107	民間委託はあまり賛成できない、税金は市に直接使ってもらいたい。	
108	市で責任をもって仕事をしてほしい。	
109	民間委託を推進していくことで、市民サービスが低下しているように感じる。市と市民の関わり合い、触れ合いがなくなってしまう。市民にもっと寄り添ってほしい。	

110	民間にできることは民間に任せていく姿勢は具体的に。	
111	意見を何回言っても変わらない、何のための意見交換会か。	皆さんのご意見が言いつぱなしにならないようにします。また今回も、いただいたご意見と市の考え方は公表いたします。
112	近隣市町村の良い事例、悪い事例を研究してほしい。良い施設なら遠くても利用する。単純に距離ではなく、一番良いのは市民にとって使い勝手が良い施設かどうかである。	そのような研究をすることになっています。

■ 公共施設再編計画に関する意見以外の意見

- ・後継者不足で空いている畑がコンテナ置き場や駐車場となっているが、芝生を植えて子どもの遊び場になるとよい。子どもが育てやすいまちには人が増え、住民税も増える。
- ・駅周辺は様々な世代がいる。小さい頃一緒にサッカーをし、現在クラブチームに所属している子もいるが様々な人材を清瀬市に呼べるとよい。
- ・公共施設のトイレを全部見て歩いたが所沢市と比べひどい状況であった。トイレを見るとまちの文化レベルが分かる。
- ・全国から視察が来るようなモデル都市になってほしい。
- ・公共施設利用の際、障害者の割引制度を導入してほしい。これに関して東久留米市、小平市を視察してほしい。
- ・社会福祉協議会は弱者が利用する施設なのに、コミュニティプラザひまわりでは遠い。
- ・公共投資の話は範囲が広い。例えば歩道が狭く歩道橋を設置してほしい場所がある。また秋津駅の地下を通路で結び、行き来できるようにしてほしい。
- ・まちづくり委員会の意見箱に意見が入らない。市民が意見を言いやすくなる工夫をしてほしい。
- ・認知症の方にバッチを付ける提案をしたい。市内で迷子になっても気にかけてもらえる。
- ・昔は地域活動やボランティアが盛んであったが、今は経済的に余裕がない人が多いためボランティアする人はいない。
- ・市と市民の関わり方、民間からの声の吸い上げ方(地域センター職員への指導)をしっかりとってほしい。